

開催記念 シンポジウム

明石博高

企画展

京都近代化の 先駆者

明治維新後の京都は一時、人口・経済が低迷しました。それは、明治2（1869）年の東京奠都で天皇と政府が東京に移ったためでした。当時、京都府参事（後に知事）の任にあった榎村正直、顧問の山本覚馬、そして青年蘭方医の明石博高^{あかしひろあきら}は、西欧諸国の技術・学問を取り入れ、文化や産業の振興をはかって、京都の衰退を止めようとしてきました。

彼らは、日本初の学区制小学校設立を皮切りに、集書院（図書館）や勸業場、舎密局、療病院などを建設し、驚異的なスピードで革新的施策の推進を図っていったのです。本シンポジウムでは、とりわけ明石博高にスポットを当て、知られざる明石の人物像、そして明石が推し進めた近代化のあゆみに迫ります。



2022
5/21 sat

14:00 開会 - 16:00

京都府立京都学・歴彩館 大ホール

入場無料（抽選240名）

Akashi Hiroakira

明石博高

企画展

京都近代化の先駆者

開催記念シンポジウム

プログラム

■挨拶

井上章一(国際日本文化研究センター所長)
佐野元泰(神田外語大学理事長)

■話題提供

「明石博高とヘルツ 一本草から舎密へ」

薬舗に生まれた明石は祖父から本草学、漢蘭の医学、舎密術を学び、本草漢学塾山本読書室の山本章夫に入門。さらにハラタマから理化学を学びました。明石が京都舎密局においてヘルツと協力して京都の近代化学教育を創始した背景と意義を考察します。

松田 清(神田外語大学客員教授)

「市井の医師明石博高」

明石は京都府に奉職し理化学革新を推し進めつつも、慶応2(1866)年に開業して以来、市井に根差した一人の医師としてその生涯を貫きました。私立病院設立文書や処方録など一次史料をもとに医師・明石博高の素顔に迫ります。

光平有希(国際日本文化研究センター特任助教)

■パネル討論

司 会：松田利彦(国際日本文化研究センター副所長・教授)

パネラー：フレデリック・クレインス

(国際日本文化研究センター副所長・教授)

町田明広(神田外語大学准教授)

松田 清(神田外語大学客員教授)

光平有希(国際日本文化研究センター特任助教)



松田 清



光平有希



フレデリック・クレインス



町田明広



松田利彦

京都府立 京都学・歴史館 Kyoto Institute, Library and Archives

〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1-29

[アクセス] ●京都市営地下鉄烏丸線

「北山駅[K03]」(1番、3番出口) 南へ徒歩約4分

●京都市バス4系統・北8系統

「北山駅前」南へ徒歩4分 / 「府立大学前」北へ徒歩約6分

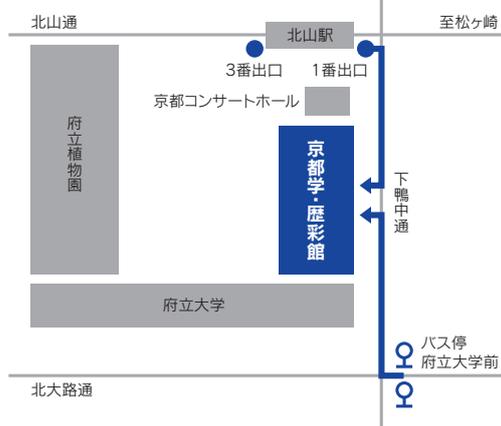
●名神高速道路京都南ICから

京都市内地下鉄北山駅方面へ約45分

※敷地内にコインパーキングを併設しています。

[タイムス京都学・歴史館]

最大料金 平日 800円/日 休日 1,100円/日



要事前申込

詳細は4月初旬に
日文研のHPで
公開予定です。



科研費

本研究は
JSPS科研費21K12911の
助成を受けたものです。

第1部

京の洋学 — 明石博高の活躍の歴史的背景

京都の蘭学・洋学の特徴や幕末から明治前期における京都の出版文化を紹介します。

第2部

明石博高 — 京都の近代化の先駆者

京都密局や療病院といった近代医療・理化学関連施設の創立など、明石博高が推し進めた京都近代化の歩み、さらにお雇い外国人と明石との密接な繋がりを考察します。

[日 時] 2022年4月16日(土)~6月5日(日)

[会 場] 京都府立京都学・歴史館 1階展示室

[開室時間] 9:00~17:00

[休館日] 4月29日(祝)、5月3日~5日(祝)、11日(水)

入場
無料

